

# 妊 娠 中 の 母 子 関 係

黒 川 徹 (九州大学医学部小児科)  
(財) 母子衛生研究会九州事務局

## はじめに

前回の乳児健診における体重と親子関係の調査結果から妊娠中の心理と出生後の心理と現実とにどのような相違があるか、それを母子保健を推進して行く上で、どのような点に留意したらよいか、妊婦を取り囲む社会環境経済状況がめまぐるしく変動する中で妊婦の置かれている立場、妊婦の心理状態が、妊婦自身、胎児にどのような影響を及ぼすか、率いては育児にどう反映するか、を把握し、今後の母子保健推進の目安とすべく実施を計画したが、今回は妊婦の心理状態と妊婦をとりまく社会生活、環境状況を報告する結果となった。

## 採 集 方 法

アンケート項目については愛育班アンケートその他を参考にした。期間は昭和57年5月～7月まで福岡市、北九州市、その他の妊婦に市町村の妊婦台帳を用い、個別に講演会式母親教室の案内状を出した。案内状12600名の中母親教室に参加した者1450名、回答数827名であった。記入については、無記名で各自会場で記入してもらった。

解析は単純集計、クロス集計と各々に対する検定をもとにした。これ等の計算には九州大学大型計算機センターのFACOM-M200を使用した。

## 結 果

### ①妊婦をとりまく社会的環境

参加率は北九州が高く、年齢は26才～27才をピークにほぼ左右対称の分布をなしている。少数に見られる思春期妊婦の心理状態が児にどのように影響するか、今後の経過を追跡して行こうと思う、学歴は高卒が5.3%で最も多くついで短大が22.9%だった。

職業を持っている人は17%で事務系6%、専門技術職5%、そのうち25%はパートタイムだった。こども時代の同胞数は1人が8%、2人が7.1%だった。親と同居している者は少なく74

%が別居である。その内80%が親の近くに住んでいる。回答者の74%は初産である。

### ②妊婦の心理的環境

ほとんどの妊婦のためにその夫は妊娠に対し、喜びを感じているが、20%近くにとどまどいも認められる。妊娠に対する計画性は78%であり、92%が健康を自覚している。

約半数が妊娠、出産、生れて来る赤ちゃんに不安を持ち、前者では身体健康のことで40%の妊婦が不安を持ち、精神的な不安を19%、経済的不安15%生活環境上の不安10%といわゆる個人の満足感の価値感の相違を表わしている。後者では赤ちゃん自身の異常を懸念している者が81%で、育てる自信がないと訴える者が15%であった。妊娠中の家族の協力の姿勢は高く90%が何らかの形で協力している。出産予定場所はアンケート採取場所が反映しているが、総合病院が48%を占め、助産院は1%である。その理由として自宅に近いことと、信頼感をあげている。

無痛分娩の希望者が3%しかなく、ほとんどが自然分娩を望み母親となる自覚を示しているが、出産時の夫の立合いを4.3%が望んでいる。と云うのは女性としての認識の相違が世代に反映しているように思われる。

出産後は90%が出来るだけ早期母児同室を望んでいるが、前回の乳児健診アンケート調査結果では時期が遅く母親の意志とは相応していない。栄養法に関しては95%が母乳の子定であると解答しているが、乳児アンケート結果によると、33.5%が母乳のみで1～3ヶ月に混合41.5%へ移行、はじめから人工2.5%と解答しており、その間の相違点に問題があると思われる。ほとんどの妊婦が赤ちゃんの世話を献身的に行おうとしている。90%が夫の育児参加を希望している。妊婦の育った環境は愛情に満ち、ほぼ9割が兄弟を持っている。

7割が何らかのかたちで育児の経験を持っている。しかし30%の妊婦が育児の経験がなく初めて赤

ちゃんと対面、育児にたずさわるのである。家庭生活、育児に対しては妊婦の8割が期待、夢を持ち子ども好きであるが、20%の者が期待、夢を持っていない。

後者は出産を経験し、育児を通して人生感も変わるだろうと思うが、胎児に対する影響はどのようなものか、経過を見て行くべきである。半数の女性が社会に出て働くことの必要性を認め、92%が女性であることに、よかったと感じている。

後者は出産を経験し、育児を通して人生感も変わるだろうと思うが、胎児に対する影響はどのようなものか、経過を見て行くべきである。半数の女性が社会に出て働くことの必要性を認め、92%が女性であることに、よかったと感じている。

次に各々の項目間の関係を検討した。今回の妊娠を望んだが、どうかについては年齢、子どもの数が要因効果として大きい。妊娠中の健康は若い程よい。妊娠、出産への不安は学歴、親との同居の有無、出産経験が要因として大きい。親との同居については、妻の親と同居は非常に安定した心理状態であるが、夫の親との同居、又は別居している者については不安が非常に多い。妊娠、出産については低学歴者ほど不安が多く、生れてくる赤ちゃんの不安は高学歴者に多い。

栄養法については職業の有無が要因として上げられる。家庭生活、育児に対する期待、夢は年齢の若い者ほど多く、学歴と女性が社会に出て働くことの希望は関係がある。

## 考 察

戦後37年高度成長時代から低成長時代へと移行し、核家族化、教育水準の上昇、女性の職場進出、少産少死の時代に妊婦のとりまく環境、心理的なものが胎児にどのように影響し育児にどのように反映するか、このアンケート結果からは精神

面での母子関係の緊密さは妊娠に対するよろこび、育児に対する気構えを見る限りにおいて良好であり、言われている大人の無責任さは表現されていない。

このことは、このアンケートが任意団体の参加に対する強制力を持たない母親教室に積極的に参加した比較的恵まれた環境の妊婦に対するアンケート調査に起因するものと思われる。

その中でも特に注目すべき点は

1. 妊娠に対する計画性が非常に高い、その結果健康状態も非常によいと自覚し、そのことに最も注意を払っている。
2. 約半数の妊婦が妊娠、出産、育児に対して不安を持っていることである。この点に関しては学歴、親との同居の有無に関係が認められることから、彼女等がより多くの情報を求めていることが分る。
3. 妊娠、出産、育児は女の仕事という古くからの概念が崩れ、夫の積極的な協力、参加の現実現代の世相を反映し、現代の妊婦の要請の強さではなからうか。
4. 低年齢、高年齢との差、中高卒と短大、大学卒の間で、妊娠、出産、家庭生活に対する期待、考えが異なることである。

前回の乳児健診アンケート、今回のアンケートを通して心配、不安感を訴える者が多く、物質豊かに育った世代の親が満足の価値感をどこにおくか、又情報過多の世相の中で真の情報の提供を求めているのではなからうかと推測される。

これまで母子保健指導は純粋医学的立場から全妊婦を対象になされてきた。しかし今後は個々人の置かれている立場を考慮した、きめ細い“経験的”な指導が望まれる。

年齢の分布

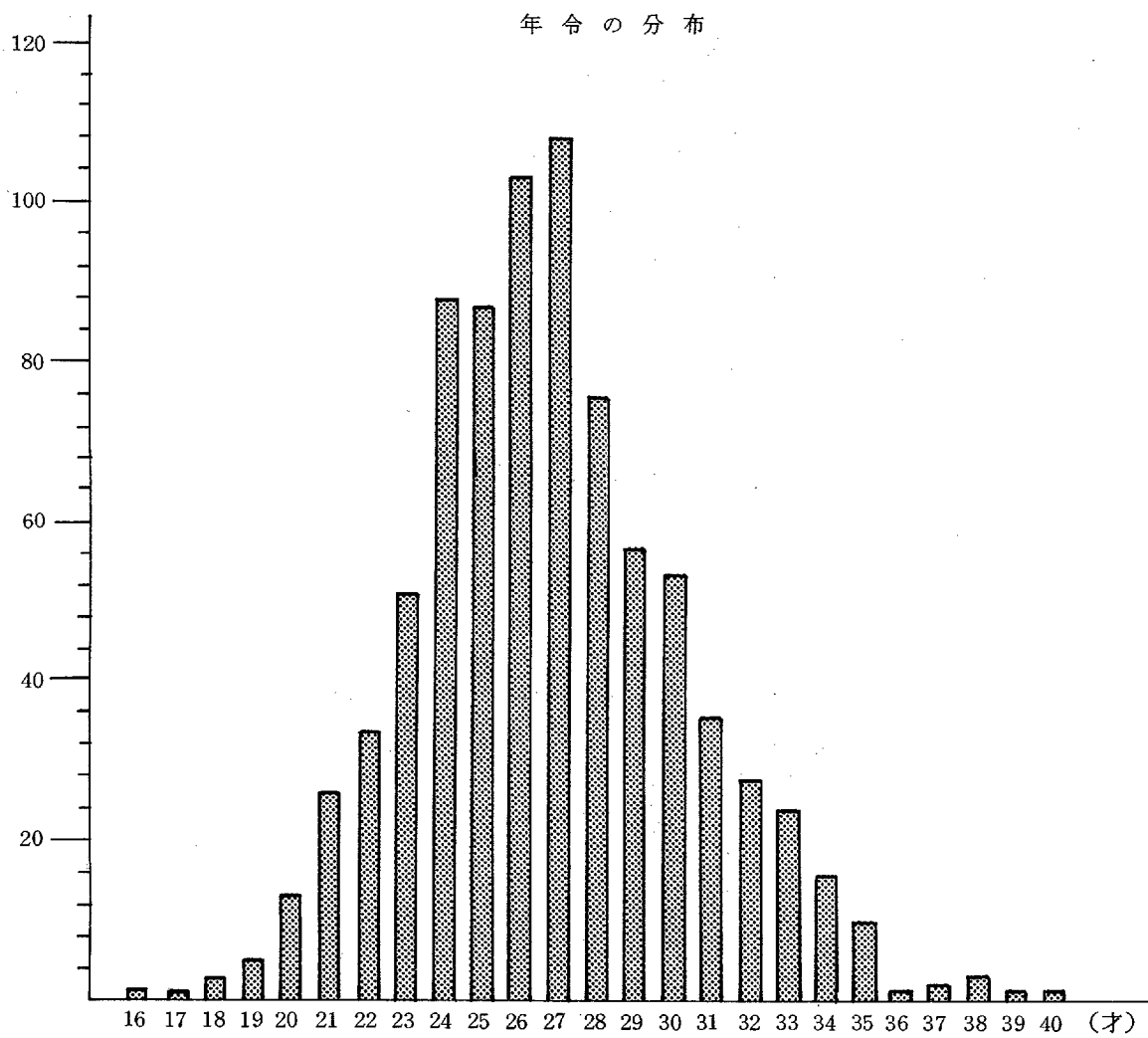


図 1

親との同居の有無

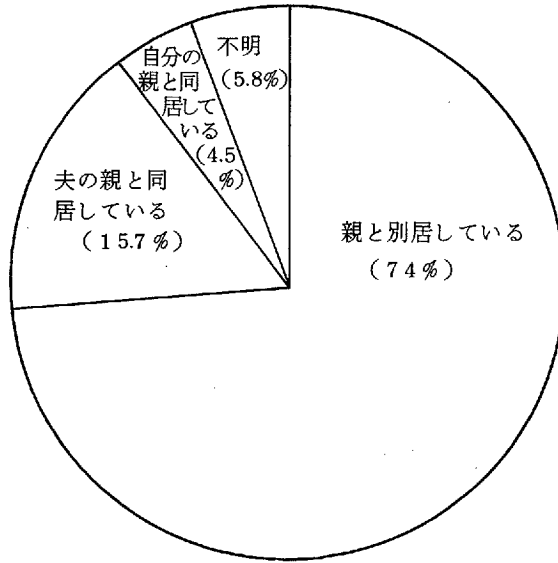


図 2

今回の妊娠は、望んだ、あるいは計画したものでしたか

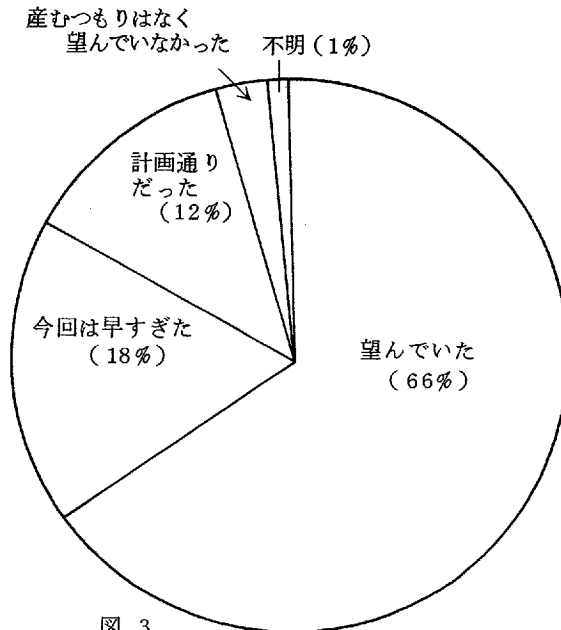


図 3

妊娠、出産について、心配・不安がありますか

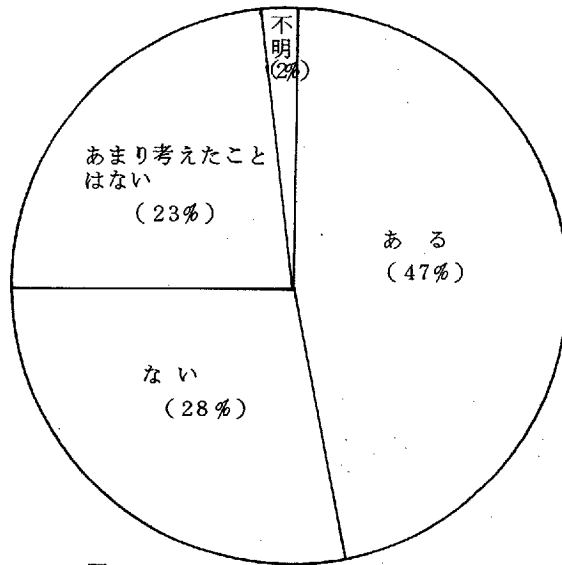


図 4

生まれてくる赤ちゃんのことに  
ついて、心配、不安なことがありますか

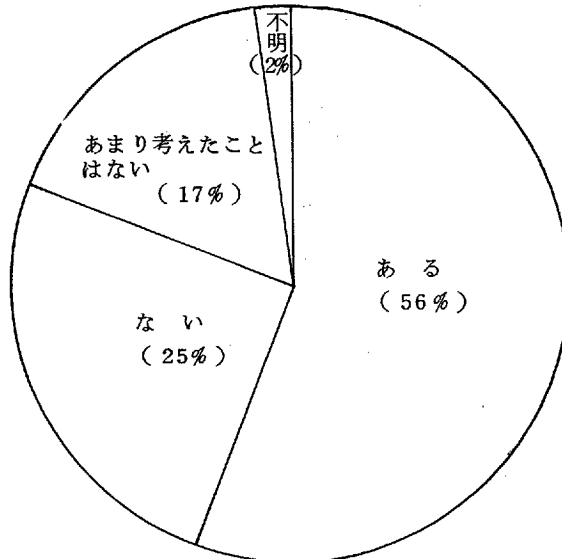


図 5

妊娠、出産についての心配、不安の内訳

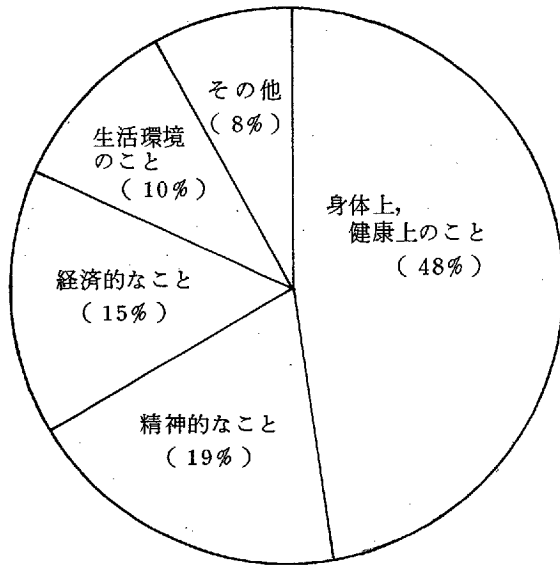


図 6

生まれてくる赤ちゃんのことについての、心配、不安の内訳

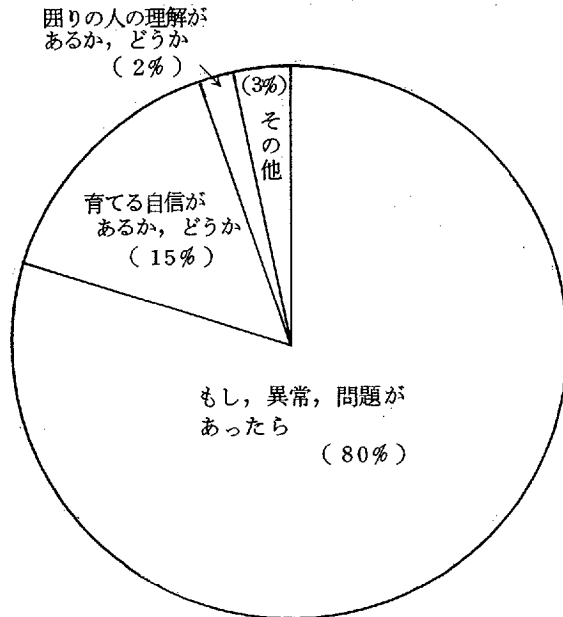


図 7

出産の時、ご主人が立ち会うことについて、どう思いますか

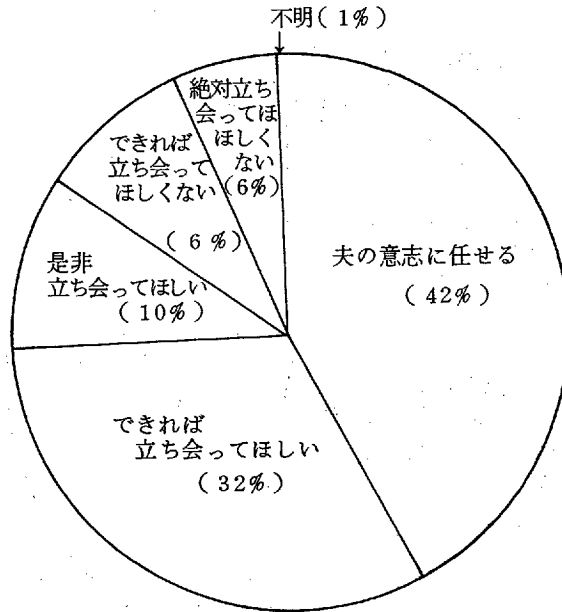


図 8

ご主人もいっしょに育児に参加することについてどう思いますか

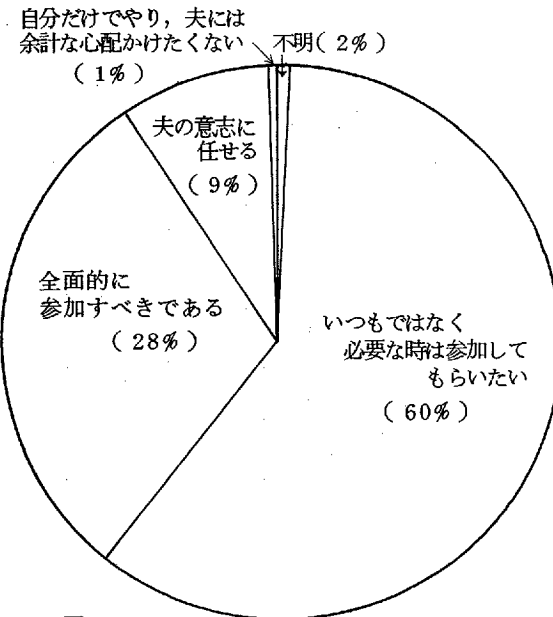


図 9

あなたは、家で子供を育てることと、社会に出て働くことの  
どちらを望みますか

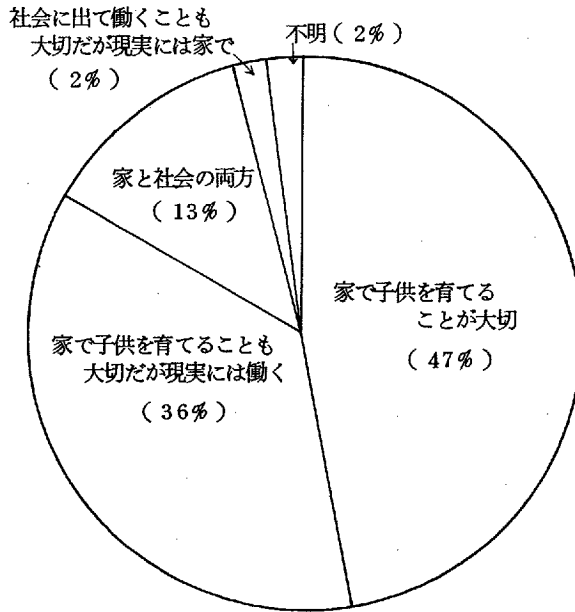


図 10

表 1. 妊娠、出産の心配、不安と親との同居の有無

	ない	あまり、考えたことはない	あ る	不 明
夫の親と同居している	32名 (25.6%)	22名 (17.6%)	71名 (56.8%)	5名
本人の親と同居している	15名 (40.5%)	4名 (10.8%)	18名 (48.7%)	0名
親と別居している	147名 (24.5%)	108名 (17.9%)	346名 (57.6%)	11名
不 明	10名	8名	28名	2名



表2. 妊娠, 出産の心配, 不安と出産経験

	な い	あまり, 考 えたことは ない	あ る	不 明
初 め て	146名 (23.4%)	158名 (25.4%)	319名 (51.2%)	11名
第 2 子	78名 (48.5%)	28名 (17.4%)	55名 (34.2%)	4名

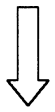
表3. 職業の有無と授乳の仕方

	子供の要求	どちらか という と要求	どちらか という と規則	時間を決 めて規則 的に	どちら でもよ い	不 明
な し	172名 (26.9%)	280名 (43.8%)	56名 (8.8%)	109名 (17.0%)	23名 (3.6%)	17名
あ り	26名 (19.1%)	59名 (43.4%)	16名 (11.8%)	29名 (21.3%)	6名 (4.4%)	6名
不 明	7名	13名	2名	4名	0	2名



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

前回の乳児健診における体重と親子関係の調査結果から妊娠中の心理と出生後の心理と現実とにどのような相違があるか、それを母子保健を推進して行く上で、どのような点に留意したらよいか、妊婦を取り囲む社会環境経済状況がめまぐるしく変動する中で妊婦の置かれている立場、妊婦の心理状態が、妊婦自身、胎児にどのような影響を及ぼすか、率いては育児にどう反映するか、を把握し、今後の母子保健推進の目安とすべく実施を計画したが、今回は妊婦の心理状態と妊婦をとりまく社会生活環境状況を報告する結果となった。